魔女あるいは悪魔幻想

八　木　三　男

魔女の一撃

最近、東京の個人病院で点滴や注射等で菌が患者の血液に混入して、院内感染で多数の死者をだした。「敗血症」である。弱い菌でも血液に混じると大事にいたる。新聞の著名人の死亡記事にも敗血症がときどきある。新聞報道の敗血症が気になるのはわたくしが昨秋に、その病気で一ヶ月半入院し、重症のためにたいへん苦しんだからである。

敗血症を通俗医学書でみると概略次のようだ。化膿傷または膿瘍から多数の化膿菌が血液中に混入することによっておこる全身感染症。突然悪寒戦慄をもって高熱を発し、重症の場合は意識が混濁する。治療はすみやかに強力な抗生物質療法をおこなう。わたくしの主治医は、正式に敗血症と名づけるには、培養による菌の特定が必要だといった。

十月初旬のある夕方、いきなりひどい悪寒に見舞われ、三九度あまりの高熱になった。翌日七度くらいに熱が下がったので、近くの開業医の診察をうけたが、風邪だろうといわれた。試みに尿検査をやり血糖値が異常に高くなっていると知らされた。わたくしは症状に風邪の徴候はなく納得したわけではなかったが、熱

も下がり、たいしたことはないと思った。

三日後の夜半、いきなり腰に激痛が襲った。咳をしても、深く呼吸をしただけで電気が走った。ヨーロッパではこの種の電気が走るような激烈な腰痛を「魔女の一撃」というらしい。これは最も邪悪な魔女のそれだと思った。魔女は通常一三人ずつ地域ごとに組をつくって毎週会合するが、年に四回魔王主催の「魔女宴」に全国の魔女たちが招かれる。わたくしは折あしく魔女宴に遭遇して、唇にまで毛を生やした不気味な彼女ら大勢に遊び半分にかわるがわる杖でたたかれているのだと思った。三日三晩泣き叫んだ。

救急車で運ばれた県立病院の診断では、肘にできた化膿症の菌が血液に混じり、同時多発的に肺炎、脊椎の炎症、胃潰瘍、貧血が起こり、下手をすると脊椎が崩落する危険があり、また、約一・七リットル下血した。重症だった。主治医は運が悪かったと慰めてくれたが、突然といい、同時多発的といい、脊椎崩落のおそれといい、これはテロだと思った。

しかし、わたくしの場合は、健康に留意せず、不摂生を重ねてきた結果、血糖値が急にあがり、体力が弱っていたときに内なるテロに見舞われたわけで、自業自得ということでもあるだろう。そう考えていたら、アメリカのヴェトナム侵略に反対したキング牧師のつぎの言葉を思い出した。「殺人の、あらゆる新兵器の砲火を彼らの国土にあびせかけておきながら、どうして彼らの暴力の罪を責めたてることができるでしょうか」（『良心のトランペット』みすず書房）。

悪魔幻想

ブッシュ大統領は「自由と正義の国アメリカがなぜこんな凶悪卑劣なテロに見舞われなければならないのかまったく理解できない」といった。近ごろこれほど能天気で歴史から学ばない言葉を知らない。第二次大戦後パレスチナ問題でアメリカが一貫してイスラエルを支持してイスラム世界と対立してきたのは周知のことだが、自国の利益に反するとみれば、アメリカ流の「自由と正義」をかざして他国の主権を徹底的に侵害し、国連による自衛権制限、武力不行使の原則を昂然と無視してきたのが、アメリカの戦後史なのである。

アメリカが自国の利益が脅威にさらされていると考えさえすれば、世界のどの地域や国に対しても、原爆の使用も辞さない武力による先制攻撃をかける「限定された地域」戦争の原則は、朝鮮戦争でその原型が与えられた。以後、ヴェトナム戦争、チリのアジェンデ

政権の崩壊、グレナダ、パナマ侵略等テロを含むあらゆる暴力でその国の人民を殺戮し、主権を侵害してきた。拙著『愁雲の街』（ふきのとう書房、一九九九年）の「韓国にて」の項で詳述したことがあるが、最近では、ユーゴ空爆がいっそう激しくなった一九九九年四月、アメリカ主導のＮＡＴＯ（北大西洋条約機構）首脳会議で、かつてソ連を中心にした軍事同盟に対抗するためのＮＡＴＯの唯一の任務であった共同防衛的性格（条約第五条）を、新たに「非『五条』危機対応作戦」を打ち出すことによって、干渉的・攻撃的性格に変えた。ＮＡＴＯ加盟国が侵略を受けない場合でも、「紛争阻止」を名目にＮＡＴＯの判断で外国に軍事介入＝先制攻撃することを宣言した。その紛争には「民族的、宗教的抗争、領土紛争、不適切な改革努力や失敗、人権侵害」までもいれ、そのうえ、「ＮＡＴＯの安全の最高の保障はＮＡＴＯの戦略核戦力、とりわけ米国のそれによって与えられる」といいきった。また、ＮＡＴＯのソラナ事務総長は、国連安保理の承認のない軍事行動もありうると明言した。

しかし、いまやブッシュ政権は軍事・経済・環境問題等で「自国利益第一主義」を公然と掲げ、この一月、二〇〇三会計年度（今年一〇月から一年間）の軍事費を一五％増額すると発表し「われわれの第一の優先課題は軍だ、神から呼びかけられた最高の使命だ」と演説した。さらに最近「核態勢見直し（ＮＰＲ）」で、核兵器を使う新たな不測の事態にアメリカが直面しているとして、中国、ロシア、北朝鮮、イラク、イラン、シリア、リビア七ヶ国を核攻撃の標的に想定した（ロサンゼルス・タイムズ）。そのうえで、ラムズフェルド国防長官は「核態勢見直し」に関連して「核兵器を持つ国ならどの国も、核兵器の威力、致死能力にたいし、うやうやしい気持ちを抱かずにはいられない」と国防大学で発言している。核信仰である。アメリカのシンクタンク、国防情報センターによると、二〇〇三会計年度の軍事予算案三九六〇億ドルは、世界第二位のロシアの軍事費の六・六倍、ロシアから第二六位までの二五カ国の軍事費の合計を上回るという。

わたくしはかつて一九五二年朝鮮戦争のさなかにＬ・Ｆ・ストーンが書いた名著『秘史朝鮮戦争』の最終章を思い出す。当時アメリカの指導勢力は平和がアメリカの経済全体とくに軍需産業におよぼす作用をおそれ、その恐怖でしめつけられていた。その文脈のなかで、朝鮮戦争の軍事的主力をになった第八軍の司令官ヴァン・フリートは、次のように結論づけたという

のである。「朝鮮はひとつの祝福でした。この地か、世界のどこかで"朝鮮"がなければならなかったのです」（朝鮮戦争については拙著『愁雲の街』参照）。

ブッシュ大統領のイラク、イラン、北朝鮮を名指した「悪の枢軸（Devil Axis）」発言は、小泉首相を除いて、国際的な批判をあびている。自らの信仰を誇り、テロに対する報復戦争を神の意志だと思っているブッシュ大統領にとって、悪（Devil）とは当然キリスト教の悪魔（Devil）のことだろう。

アナール学派第四世代だというジャン＝クロード・シュミットの『中世の迷信』（松村剛訳、白水社）は「悪魔創出の時期は遅く、悪魔はかなりの度合いにおいてキリスト教の産物である」という。

悪魔はDemonともDevilともいうが、悪魔にキリスト教的な形態を与えたのは聖アウグスティヌスである。五世紀のはじめアウグスティヌスは『悪霊の予言について』のなかで、悪魔は人間より以前に世界の初めに造られ、きわめて長い経験と膨大な知識をもっていると書いた。悪魔は鳥や飛行機など比較にならないほどすばやく、また、人間の身体や精神もふくめて、あらゆるところに侵入できる。身体の奥深く侵入する炭疽菌はむろん悪魔の仕業である。悪魔の誘惑と欺瞞は人間を、聖人を含めて容赦しない。彼らよりはるかに弱い人間の精神には常に打ち勝つ。人間をより巧みにだますために、必要なら虚偽にときおり真実を混ぜる。

炭疽菌は場合によっては人間を多数殺戮するためにアメリカ自身が開発し、大量に生産しているものだ。今回の場合、アメリカが生産した炭疽菌が撒かれた疑いが濃厚である。ブッシュ大統領が一般教書演説で「イラクは炭疽菌や神経ガス、核兵器の開発を企ててきた」といって「悪の枢軸」の最悪の国として非難したが、アメリカ自身はそれらを大量に生産し、確実に保持しながら、開発を企てている国が悪魔としてのののしられ、かつテロの制圧を名にしながらも、当のアメリカによって権力そのものが転覆させられようとしている、この論理は通常の頭では理解しにくいだろう。折りも折り、今年二月にアメリカ国防省内に宣伝戦担当部門が新設され、同盟国を含む外国メディアを通して情報を操作することを検討しはじめた、とニューヨーク・タイムズが報じた。これに関連して、ラムズフェルド国防長官は敵を欺くためには、虚偽の報道を流すことも辞さないといった。同盟国をだますようなことは決してしないともいったが、外国メディアの報道

がアメリカのメディアを通じてアメリカにもたらされることもしばしばあり、米国市民にうそをつくことになるのではないかと懸念が広がった。かりに必要によって真実のなかに虚偽を混ぜたとしても、「必要なら虚偽にときおり真実を混ぜる」悪魔とどれほどの違いがあろう。

一月三〇日の『朝日新聞』にマサチューセッツ工科大学のジョン・W・ダワー教授の「理性の声聞かぬアメリカ」と題する論説が載った。彼はブッシュ政権の対外政策を一言でいえば、それは「単独行動主義（ユニラテラリズム）」であるといいつぎのように続けた。「いまやアメリカの政治論議では、『進歩的』とか『自由主義的』という言葉はたいてい軽蔑語である。『理想主義』とか『道徳主義』はもはや使いものにならないとされ、対外政策の分野では、そんな発想は危険とさえみなされている」「『国際主義』や『多角主義』は現実的政策や単独主義的政策の反対語である」。

軽い腰痛が残った

わたくしを痛めつけた魔女たちの狂宴は三日三晩続いたが、霧消して止んだ。わたくしは入院中、主治医の指示を忠実に守り、看護婦の世話に満腔の感謝をしつつ、摂生し、治療に専念した結果、貧血も回復し、炎症反応もほとんど消え、体重が四キロ減ったお陰で血糖値も正常に近くなった。軽いヘルニアによる腰痛だけが残り、これは時間をかけて治す以外にないと医師にいわれた。まだ坐薬を要するほどに腰は不安定だが、春になったら運動量も増え、一段と快方に向かうだろう。

体中のテロに報復戦争を仕掛ける術はないが、全体の体力を高め、養生に努め、通俗医学書も再発することもあると警告しているように、内なるテロが再び起きないように不断に努力するしかないであろう。二一世紀を無法卑劣なテロ根絶の世紀にするためには、迂遠のようにみえても、そのための国際連帯と協同、それによる法の裁きが不可欠だろう。また、国際的ネットワークを形成するテロリストの組織形態にたいしては、それにみあうイスラム世界を含むグローバルな協力・協同の形成とそれの不断の努力が、テロ根絶にとってむしろ現実的である。かりに武力が必要な場合でも、その観点を貫くことが、ブッシュ流にいえば、世界のすべての神々の意志にかなうことになるだろう。

（やぎ　みつお・にいがた県民教育研究所所長）